

「外国人を受け入れる地域社会の意識啓発に関する提言」  
グッドプラクティス集

テーマ	「外国人と地域社会を繋ぐ役割を担う人材」の育成
タイトル	多文化ソーシャルワーカーの養成
実施者	神奈川県
趣旨	<p>多文化共生に関する知識や経験を持ち、在住外国人の抱える様々な問題に対応できる人材を養成する。</p> <p>※多文化ソーシャルワーカー 外国籍県民が抱える困難や課題の解決を図り、自立化を促進するため、必要な知識や行動力を備えた相談役・多文化共生の推進役となる人材</p>
内容	<p>○ ソーシャルワーカーの人材養成を図る。 「かながわコミュニティカレッジ」による講座の開設 外国籍県民が抱えるさまざまな課題の解決に向けて、文化的背景の違いを踏まえながらケースワークを行うなど、多文化共生の相談役・推進役として活動しているソーシャルワーク実践者のスキルアップを図るための知識・技術を学ぶ。</p> <p>講座内容(平成21年度)</p> <p>第1回 多文化ソーシャルワークのイメージを描く 第2回 ソーシャルワークの展開プロセスを学ぶ 第3回 ソーシャルワークのアセスメントを学ぶ 第4回 多様な文化に配慮したソーシャルワークを学ぶ 第5回 演劇を通して当事者理解を学ぶ 第6回 地域社会へのソーシャルワーク、スーパービジョン</p> <p>※1回あたり3コマ(1コマ90分) 定員 35名</p>

テーマ	「外国人と地域社会を繋ぐ役割を担う人材」の育成
タイトル	多文化社会コーディネーター養成プログラム
実施者	東京外国語大学
趣旨	<p>多言語・多文化化によって起こる様々な課題に、多様な人々・組織・機関との連携協働で対応していける人材である「多文化社会コーディネーター」を養成</p> <p>※多文化社会コーディネーター（本プログラムでの定義）</p> <p>あらゆる組織において、多様な人々との対話、共感、実践を引き出すため、「参加」→「協同」→「創造」のプロセスをデザインしながら、言語・文化の違いを超えてすべての人が共に生きることのできる社会の実現に向けてプログラムを構築・展開・推進する専門職。</p>
内容	<p>本養成プログラムは、養成講座の開催、協働実践研究プログラムや研究誌との連携などを含めてプログラムとしているが、その中核に置いているのが、養成講座である。多文化社会の現場で働く実務家（実践者）を対象に、「政策コース」、「学校教育コース」、「市民活動コース」の3つのコースを準備した。各コースとも「共通必修科目」「専門別科目」「個別実践研究」の3部構成でカリキュラムを用意している。「共通必修科目」は、3コース共通科目として合同開催、専門別科目はコース別、個別実践研究は各個人別で行っている。すべてを修了した者に修了書を授与する。</p> <p>コース名と対象者</p> <p>「政策コース」：国際交流協会・行政・企業の中堅スタッフなど</p> <p>「学校教育コース」：小中高等学校の教職員・教育委員会職員など</p> <p>「市民活動コース」：地域で日本語支援や生活相談などを行っている機関・団体の中心者</p>

テーマ	「外国人と地域社会を繋ぐ役割を担う人材」の育成
タイトル	多文化共生マネージャー養成
実施者	全国市町村国際文化研修所（JIAM）
趣旨	国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく「多文化共生社会」に対応できる知識、関係機関等とのコーディネート能力や企画立案能力を備えた人材（多文化共生マネージャー）を育成するため、研修を実施。
内容	<p>（対象） 市町村・都道府県の職員・議員、地域国際化協会・市区町村国際交流協会の職員で、多文化共生施策を担当している方 NPO または NGO で、多文化共生、福祉、教育等の分野で地方公共団体や地域国際化協会と協働実績があり、市町村・都道府県・地域国際化協会から受講推薦書を受けた団体の職員</p> <p>（日程（平成21年度）） 前期（5日間） 講義：多文化共生に関する施策の概要 演習：現状と課題の共有 講義：外国人住民と法制度 出入国管理政策、外国人児童・生徒の教育、医療・保健・福祉分野、就労支援とセーフティネット 演習：地域課題の researched と自治体でのプランづくりに向けて 講義：多文化共生施策推進への期待 ※前期終了後、後期研修に向けて、各自が地域課題の researched に取り組む。 後期（5日間） 演習：地域課題と取り組みに関する現状の共有 自治体における事例紹介 国際交流協会の役割、指針・基本計画、政策形成プロセスへの参画、生活相談、計画づくりにあたっての視点 実地研修（終日） 演習：多文化共生推進のための3カ年計画づくり ※研修修了者を「多文化共生マネージャー」として認定</p>

テーマ	意識啓発の促進
タイトル	アースフェスタかながわ
実施者	神奈川県
趣旨	多文化共生社会の実現に向けて、異なる国籍、文化を持つ多くの県民が集い、出会い、それぞれの文化や考え方をアピールするとともに、互い理解する機会をつくるため、県内の民族団体、NGO、市民ボランティアなどが企画段階からともに力を合わせ開催するもの。
内容	<p>外国籍県民フォーラム、民族芸能等ステージ、ワークショップ、各国料理屋台、民芸品・工芸品のバザール 等</p> <p>あーすフェスタかながわは多様な国籍、文化を持つ多くの外国人と日本人の共同作業によって開催される。</p> <p>あーすフェスタの企画を担う委員は、半年間にわたって、頻繁に開かれる会議のなかで、アイデアを出し合い、フェスタの運営方法をはじめ、実施する企画の具体的内容等について幅広く議論していく。</p> <p>準備を進めていくにあたり、文化的背景からくる考え方の違いから、議論が難航することもあるが、その過程の中でお互いを理解しあい、「多文化共生」について学んでいくところにこのフェスタの意義がある。</p>

テーマ	意識啓発の促進
タイトル	県内スタディ・ツアー事業
実施者	かながわ国際交流財団
趣旨	「多文化共生」の実現に向けて何ができるかを考えるため、外国籍県民の生活の場や、外国籍県民支援に関わるNGOの活動現場を訪ねる県内スタディ・ツアーを行う。
内容	対象：学生、一般 内容：プラザでの事前学習、ツアーの実施、成果発表 日程：10月～3月

テーマ	意識啓発の促進
タイトル	多文化共生人材育成事業
実施者	かながわ国際交流財団
趣旨	教育相談事業を通じて蓄積した情報と経験をもとに、NGOと連携しながら、神奈川県内で外国籍県民の相談対応ができる人材を育成するセミナーを開催する。
内容	対象：一般 内容：地域の国際化に関する講演、多文化共生をめざした地域ボランティアの事例紹介等 回数：年1回

テーマ	意識啓発の促進
タイトル	夏期集中講座「多文化フィールドワーク」
実施者	神奈川県立新磯高等学校
趣旨	地域における多文化共生社会への理解を深めることを目的として実施する講座
内容	<p>対象  県立新磯高校、県立相武台高校、県立横浜修悠館高校、相模女子大学高等部の4校の生徒</p> <p>内容  生徒、教職員、学生ボランティア（東京外国語大学、相模女子大学）等がグループに分かれて、神奈川県内のイスラム寺院及び横浜中華街を訪問。</p> <p>2008年度  1日目：ワークショップ及び講演等  （ベトナム人講師）  2日目：横浜イスラム寺院「モスク」見学  3日目：グループ討議及び発表等</p> <p>2009年度  1日目：異文化理解、多文化共生等の学習  （コスタリカにルーツを持つ講師）  2日目：フィールドワーク（中華街見学）  3日目：グループ討議及び研究発表</p> <p>企画協力：東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センター  多文化コミュニティ教育支援室</p>

テーマ	意識啓発の促進 (外国人と顔の見える関係の構築)
タイトル	日・ポひとくち会話 (保見団地)
実施者	NPO 法人保見ヶ丘国際交流センター
趣旨	受入れ住民のためのコミュニケーション情報の提供
内容	日本語とポルトガル語の簡単な「ひとくち会話」を作成し、団地全戸に配付。 日本人住民にほんの一言でもポルトガル語を口にしてほしい、少しでも多くの外国人住民に日本語を話してほしい、笑顔とあいさつから交流が生まれればと願って、センターのボランティアと自治会の有志とが協力して作成。ことばだけでなく、ちょっとした豆知識も添えている。

テーマ	意識啓発の促進
タイトル	「文化の通訳」登録事業
実施者	大泉町多文化共生コミュニティセンター
趣旨	日本での生活や習慣、文化などを身近な人たちに伝える
内容	<p>1. 大泉町多文化共生コミュニティセンターで、日本での暮らし方（DVD「多文化共生支援日本生活案内ガイド」）について学習。日本の生活習慣や文化、地震や災害の心得などを理解。</p> <p>2. 「文化の通訳」登録</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登録者は「文化の通訳登録名簿」に登録される。</li> <li>・登録者には「登録証」が交付される。</li> </ul> <p>3. 「文化の通訳」は講座で学んだことや、その後、町から送られる情報を、それぞれの職場や生活圏の中で、知り合いや友だちなどに伝える</p> <p>※町から送られる情報（メールを中心として提供）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の文化や生活の案内などの情報</li> <li>・防災訓練や清掃活動、その他 外国人にも参加してほしい催しなどの情報</li> <li>・その他、コミュニティセンターでの新しい情報や、ボランティア募集などのお知らせ</li> </ul>



テーマ	意識啓発の促進 (外国人に対する心の壁の解消)
タイトル	「良いブラジル人」(Bom Brasileiro) キャンペーン
実施者	愛知県名古屋市に拠点がある、日本語のブラジル情報サイトを制作する企業
趣旨	外国人も良き市民であるというメッセージを発信するキャンペーン
内容	日本語とポルトガル語で、雑誌に意見広告を掲載したり、イベントや街頭でパンフレットを配布することにより、ブラジル人は日本でルールを守って生きようとしている人々であることを主張。

テーマ	意識啓発の促進 (外国人に対する心の壁の解消)
タイトル	インターネット掲示板差別書き込みに対する取組み
実施者	奈良県インターネット掲示板差別書き込みについて考えるプロジェクト会議
趣旨	インターネット掲示板(電子掲示板)上に横行・氾濫する差別書き込み事象問題を重大な社会問題・人権問題として捉える中で、社会的・組織的な取り組みを展開していくために設置されたもので、奈良県市町村人権・同和問題「啓発連協」が県内の関係機関や団体などに呼びかけて結成
内容	<p>2004年6月11日に開催した第1回シンポジウムで行った「五つの決議」をふまえ、これを具体化するために次のような活動を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 活動チームの編成(※当初30チーム・約150名→現在47チーム・約230名が登録)</li> <li>2. 電子掲示板上の人権侵害事象の実態と動向の把握(モニタリング活動)</li> <li>3. 人権を侵害した書き込み記事の削除要請</li> <li>4. 関係方面への働きかけ(関係機関・団体への通報と、各組織としてのとりくみを要請)</li> <li>5. 県規模のシンポジウムを開催(年1回)</li> <li>6. 教材を作成し、各地域で開催される学習会等への側面支援(教材や情報の提供)</li> <li>7. 県内外の関係機関・団体等との連携</li> </ol>

テーマ	意識啓発の促進 (地域社会への情報提供)
タイトル	多文化共生センター管理運営事業
実施者	静岡県浜松市
趣旨	市民向けのセミナーや講演の積極的な開催
内容	<p>○多文化共生ソーシャルワーカー育成講座 地域での課題解決に当たる市民スタッフ「多文化共生ソーシャルワーカー」の育成。 〈講義内容(例)〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浜松市の現状の把握</li> <li>・多文化ソーシャルワーク概論</li> <li>・カウンセリング研修</li> <li>・出入国管理及び難民認定法</li> <li>・社会保障・行政サービス</li> <li>・医療・健康保険制度</li> <li>・子どもの教育</li> <li>・フィールドワーク</li> </ul> <p>○地域共生モデル事業 外国人が多く居住する地区をモデル地区に指定し、その地区の自治会などと連携しながら、外国人市民に対する地域ルール理解の促進や防災対策の充実などを図るとともに、モデル事業の成果を報告する。</p> <p>○国際理解教育推進事業 独立行政法人国際協力機構(JICA)と連携し、市内の小中学校における国際理解教育を推進し、異文化理解の向上を図るとともに、多文化共生につなげる。</p>

テーマ	意識啓発の促進 (地域社会への情報提供)
タイトル	しんじゅく多文化共生プラザ
実施者	東京都新宿区
趣旨	日本語学習支援の拠点として、日本語を教える人、学ぶ人など多くの方々に役立ち、活用される場となることをめざす。また、さまざまな文化をもつ人々がともに生活していくのに役立つ各種講座や催しも開催。生活情報や地域密着の情報を得たり交換することもできる。
内容	<p>多文化共生のまちづくりを推進するため、日本人と外国人が交流し、お互いの文化や歴史等の理解を深める場として、「しんじゅく多文化共生プラザ」を平成17年9月1日に設置。</p> <p>同プラザは、日本語を学んだり、日本文化や地域の情報を収集・交換するなど、様々なことに利用できる。また、地域住民や活動団体とのネットワーク化を図り、協働によりプラザで事業を実施。</p> <p>○多目的スペース</p> <p>日本語教室をはじめ、国際交流や多文化共生をテーマとした各種学習やセミナーが開かれる場所。空いている時は、オープンスペースとして、多文化共生に関する学習や話し合いなどに利用できる。</p> <p>○資料・情報コーナー</p> <p>外国人の方に役に立つ「生活情報」や「講座・イベント情報」「区の行政情報」「各自治体の情報」「ボランティア情報」など、さまざまな情報・資料を閲覧することができる。</p> <p>○日本語学習コーナー</p> <p>日本語を覚えたい人のための教材やテキストを用意。テキストを参考にしながら自習することもできる。日本語学習のボランティアが中心となって運営。</p> <p>○外国人相談コーナー</p> <p>日本の生活でお困りの外国人の相談に応じている。問題解決へ向けてアドバイスをする。無料。</p> <p>○新宿外国人センター（東京入国管理局が運営）</p> <p>外国人の入国・在留に関する各種案内。</p>

テーマ	意識啓発の促進
タイトル	磐田市多文化推進共生推進プラン
実施者	静岡県磐田市
趣旨	外国人の自立支援と地域共生に向け磐田市の取り組みを全市的かつ計画的に推進
内容	<p>2007年策定。このプランは、磐田市多文化共生社会推進協議会が地域、労働、教育の3つの部会に分かれ、日本人委員、外国人委員との議論を踏まえて「磐田市における多文化共生社会実現に向けての提言」(市への提言)をまとめたものが反映されている。</p>

テーマ	意識啓発の促進
タイトル	参加型学習を取り入れた地域日本語ボランティア研修プログラム
実施者	NPO 法人国際活動市民中心（CINGA）
趣旨	多文化社会の実現に向けて、地域日本語ボランティア教室には多様なボランティアと多様な外国人が対等に関わり、学び合う関係の構築が望まれる。理念を共有し、教室を立ち上げ、機能させていくボランティア養成のための講座を地方自治体と協働で実施。
内容	<p>対象：地方自治体住民  内容：全8回、1回2時間  各回、参加型学習の手法を取り入れ、関係性の中での学び合いを重視し、ワークショップ形式ですすめる。</p> <p>第1回 在住外国人の現状について  「日本の生活で困ったこと、私の日本語学習」  在住外国人からの問題提起とディスカッション、  在住外国人の現状把握</p> <p>第2回 多文化共生社会と地域日本語教育～その醍醐味と可能性～  多文化社会に対応した日本語学習や地域社会の関わり方</p> <p>第3回 日本語ボランティアの活動 [1]  参加型学習の手法：部屋の四隅  知っておきたい文法:形容詞</p> <p>第4回 日本語ボランティアの活動 [2]  参加型学習の手法：フォトランゲージ  知っておきたい文法：動詞</p> <p>第5回 日本語ボランティアの活動 [3]  参加型学習の手法：二頭のロバ  知っておきたい文法：助詞</p> <p>第6回 日本語ボランティアの活動 [4]  身の回りの素材と初級文法</p> <p>第7回 日本語教授法としての参加型学習  多文化共生社会を目指した日本語教室</p> <p>第8回 地域の日本語ボランティア活動の実践に向けて  活動グループ立ち上げに向けたディスカッション</p> <p>日程：地方自治体が決定</p>

テーマ	意識啓発の促進
タイトル	地域の小学生と外国籍住民の協働実践プログラム
実施者	武蔵野市立桜野小学校 6年3組 一般財団法人武蔵野市国際交流協会（MIA）会員（含・外国人会員）
趣旨	同じ地域に住む小学生と外国人がよい関係をつくること、未来を生きる人たちに「住みよい社会」をプレゼントするために、両者が協働することを目的とする。活動を通して、子どもたちには社会、世界への視野が広がること、外国人にはボランティアとして、地域の構成員であるとの自覚をもってもらうことが期待される。
内容	<p>対象：桜野小学校 6年3組 28名 MIA 日本語コース参加者延べ 26名</p> <p>内容：国語教科書（光村図書）を使っての交流プログラム</p> <p>第1回：2008年10月23日 MIA 外国人が6年3組を訪問 教科書『みんなで生きる町』授業見学</p> <p>第2回：2008年11月5日 6年3組、ユニバーサルデザイン調査のため MIA 訪問</p> <p>第3回：2008年11月12日 6年3組、ユニバーサルデザイン調査のため MIA 訪問</p> <p>第4回：2008年11月13日 MIA 外国人が6年3組を訪問 ユニバーサルデザイン調査中間報告会</p> <p>第5回：2008年12月4日 MIA 外国人が6年3組を訪問 ユニバーサルデザイン調査報告発表会</p> <p>第6回：2009年1月30日 MIA 外国人が6年3組を訪問 教科書『平和のとりでを築く』授業見学</p> <p>第7回：2009年2月24日 MIA 外国人が6年3組を訪問 教科書『平和のとりでを築く』話し合い</p> <p>日程：2008年10月から2009年2月まで</p>

テーマ	意識啓発の促進 (国際交流イベントの活用)
タイトル	ありがとう日本 日本・ブラジル感謝デー
実施者	アリガトウニッポン実行委員会
趣旨	在日外国人による日本社会へのラブコール
内容	<p>実施日：2008年7月6日  場所：静岡県浜松市の市福祉交流センター</p> <p>静岡県浜松市のブラジル人によるイニシアチブで、地域の官民との協同で、ブラジル人を温かく受け入れてくれた日本社会に対して感謝の意を表すイベントを開催。配布されたプログラムには、次のような言葉が綴られている。「移民百周年の祝いと、我々日系ブラジル人を受け入れてくれた日本国、地域で仲良く接してくれる人々に感謝の意を表すと共に、もっと、もっと、理解しあえる関係を築くために行ないます。ありがとう日本。ありがとう日本人の皆さん。」</p> <p>事前にブラジル人コミュニティの間で、「日本社会に対する感謝の気持ちを表現する」というテーマで日本語の作文コンクールが行なわれ、イベント当日に優勝者を発表。</p> <p>他方、カラオケ大会を実施。市長や国会議員もゲスト出演し、ブラジル人と共にステージで熱唱。</p>



テーマ	意識啓発の促進 (外国人に関する情報提供)
タイトル	新芽 - 在日華人児童作文集
実施者	同源中文学校編、日本僑報社発行
趣旨	在日外国人による日本社会へのラブコール
内容	<p>在日中国人が設立した出版社の発案で、NPO法人同源中文学校創立10周年を記念して出版された単行本。日本在住の華人児童が自分たちの喜怒哀楽を綴った作文128編を、著者の顔写真とともに、日本語と中国語の二カ国語で掲載。</p> <p>日本で暮らす子供たちの気持ちや考えを知るきっかけになり得る。2006年発行。</p>

テーマ	意識啓発の促進 (次世代に対する意識啓発)
タイトル	『時々迷々』第18話 「祖国」
実施者	NHK 教育テレビ
趣旨	児童向けのテレビ番組内で、在日外国人への理解を促す内容を放送。
内容	<p>放送日： 2010年2月10日（水） / 2月12日（金） / 2月17日（水） / 2月19日（金）</p> <p>『時々迷々』は、NHKが「小学校中学年向け道徳教材」という趣旨で放送している番組である。その第18話において、群馬県大泉町を舞台に、「日系ブラジル人」を主人公に、日本に移住した子供の心の揺れを描いている。「ブラジルのことを何でも自分と結びつけられることがおもしろくない」キャロと「姉が日本の学校でいじめられた」アユミが、最後には日本人の友人と交流を深めるという物語設定である。</p> <p>NHK教育テレビは同じく児童向け番組の『虹色定期便』（1998年放送）においても、群馬県大泉町のサンバ祭りをめぐる在日ブラジル人と日本人の交流を描いた。</p>